

西陣織の見学と古い家並の地域散策（報告）

実施日：2023年9月8日（金） 10:00～15:30

行程：JR京都駅集合

市バスで約25分 堀川今出川下車 西陣織会館へ

昼食後西陣織会館を出て 近くの京都考古資料館→織成館→三上工場跡の路地

参加者：小林、長谷川、菊池、梶木、高城

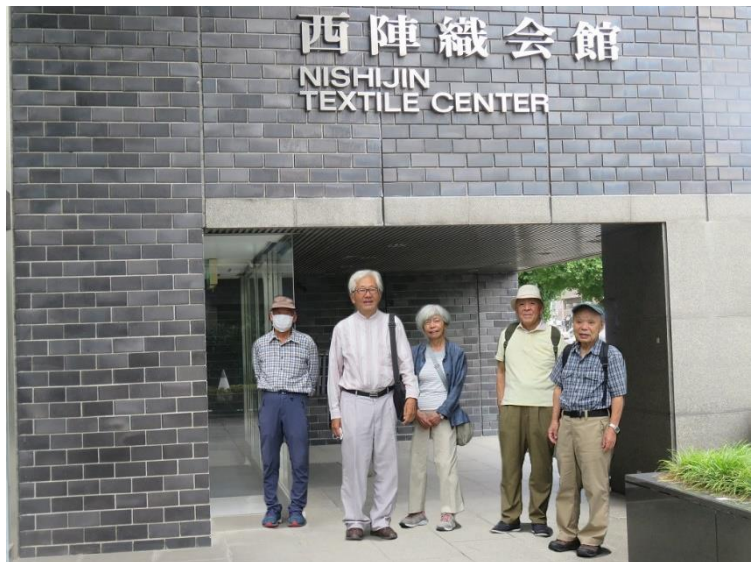
費用：西陣織会館での織物体験 2,200円

織成館入場料 500円

報告者：高城 光一

内容

1. 西陣織会館では西陣織の生産工程の説明を受ける。9つの工程に分かれるが基本的に零細企業の分業体制で出来た産地である。
2. 和服需要の減少に伴い産地の疲弊も厳しいものがあるが関係は伝統技術を継承するため奮闘されている。
3. 伝統的に新しいものを生み出す精神は高いと感じられるが売れるものへの訴求が弱いのではあるまいか。技術志向のみで歩んできたきらいがある。
4. ミニ手機による手織り体験をした。ヨコイトのサンプルを各人が選択し、杼をもって選んだヨコイトを挿入し 幅20cm 長さ30cmほどの敷物を製作した。
単純な作業であるが結構ミスをし 糸をほどいてやり直すことになった。
さて貴重な試作品は家のどこに使うか思案中である。
5. 手書き友禅の実演があり、興味深く説明を受けた。



6. 織成館では西陣織の生産工場があり 作業員から説明を受け ジャガード織機の構造に皆さん興味津々だった。

7. 西陣織の作品を見ると「よくぞこんなものを」と感心すること頻りであった。

8. 考古資料館では京都盆地の後期石器時代からの考古学資料が展示されており 平安京以前の京都盆地の歴史を学んだ。奈良の権力とどんな関係にあったか興味をそそられる。

9. 古い家並を期待したが期待外れであった。古い家並を残すには行政の明確な方針がなければ自然消滅するのであろう。

文責：高城

